

# 中継輸送・共同輸送の検討の背景・経緯

～北海道の価値を生み出す「生産空間」の維持・発展に向けて～

国土交通省 北海道開発局

令和6年2月19日



「他で代替できない北海道の価値」を最大化することで、現下の国の課題解決を先導

## 国の現下の課題

- ・ロシアのウクライナ侵略による食料・エネルギー危機
- ・新型コロナウイルス感染拡大によるインバウンド観光需要の消失
- ・2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策展開

## 北海道の圧倒的な資源・特性

### 対「食料安全保障」

食料生産＝全国の約25%（カロリーベース）、農業産出額＝全国の約15%  
漁業産出額＝全国の約17%、海面漁業・養殖生産量＝約24%

### 対「観光立国の再興」

都道府県魅力度ランキング＝15年連続全国一、来道外国人旅行者数 164万人増（感染症拡大前の直近5年）

### 対「再生可能エネルギーシフト」「エネルギー安全保障」

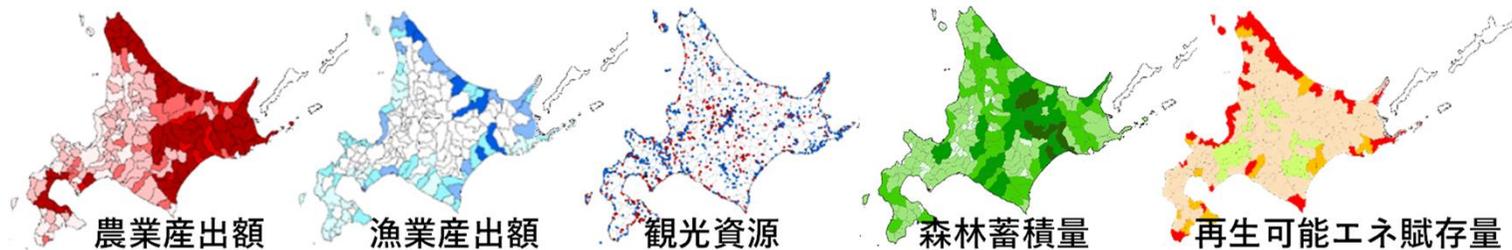
洋上風力（全国の約29%）、陸上風力（〃約51%）、太陽光（〃約25%）、森林吸収（森林面積22%）、ブルーカーボン（海岸線13%）、その他全国1位（バイオマス、中小水力）

## 目標1. 我が国の豊かな暮らしを支える北海道 ～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成
5. 自然共生社会・循環型社会の形成
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7. アイヌ文化の振興等

## 北海道の価値を生み出す「生産空間」の定住環境を、構造的課題も踏まえて維持

### 北海道の価値を生み出す「生産空間」の分布



### 北海道の生産空間の構造的な課題



## 目標2. 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

道北地域の物流の課題

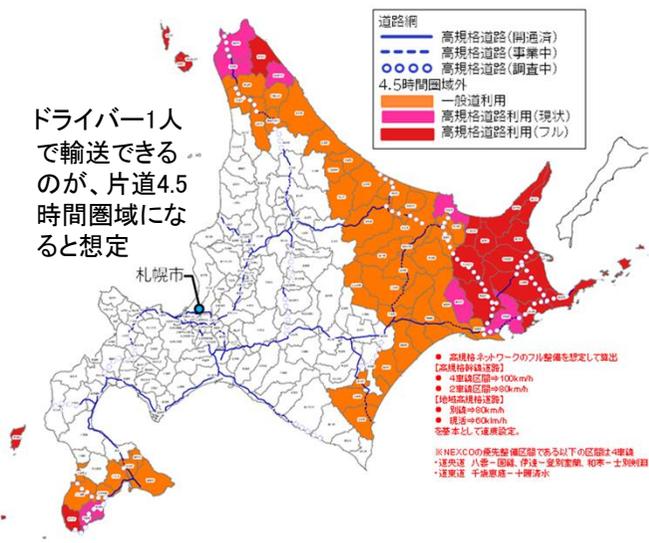
- 地理的条件**
  - 都市部からの時間距離が遠い
  - 主要貨物(農畜水産物)の貨物量の季節変動が大きい
- 社会的条件**
  - 宅配輸送への偏重
  - 地方部の人口減少の加速

- 片荷等の非効率な輸送形態
- 高コストの物流
- 宅配事業の収益環境悪化

道北物流業の衰退・宅配サービスの縮小が懸念

2024年問題、トラックドライバーの不足

札幌圏からの4.5時間輸送圏域図



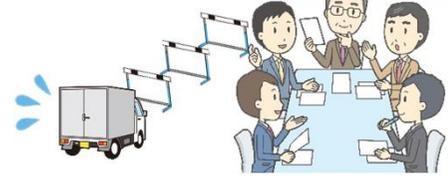
地域からのアイデア  
 地域の物流機能を維持するために「道の駅」が使えるのでは？

- 主要幹線道路に面している
- 人や地元産品が集まる
- ⇒貨物の集積拠点に適しているのでは



道の駅利用の課題

- 「誰が」「どうやって」運ぶのか
- 「道の駅」を物流目的で使用可能か
- 複数の温度帯をどう運ぶのか



令和2年

共同輸送実証実験

- トラック運行状況、積載物の状況、積載率からトラックの空きスペースを利用した混載輸送の可能性を確認し、『道の駅トラック時刻表』を作成
- 時刻表を活用し、道の駅「もち米の里なよろ」を物流拠点として、名寄以北の共同配送を試行



道の駅の「物流拠点」としての利用可能性を検討

令和3年

中継輸送実証実験

- 「道の駅」において、様々な中継方式(ヘッド交換・ドライバー交換等)/輸送経路で中継輸送の実証実験を実施。

道北圏域ロジスティクス総合研究協議会 設立  
 地元民間企業を中心とした検討体制も構築

名寄周辺モデル地域物流ワーキングチーム

令和4年



産学官の取組(民間事業者の参画) 実験・検討から実装へ

「共同輸送・中継輸送実装研究会」設立

- 持続可能なシステムとするために、より多くの民間事業者の参画を求めながら、物流事業者間のマッチングの仕組みづくりの検討・実証を行う

令和5年3月

「ロジスク」誕生

「ロジスク」(ロジスティクス+スクラム)  
 ワークショップによる「北海道流」物流マッチングモデル  
 道北ロジスク in旭川  
 道央ロジスク in札幌



7月

10月

12月

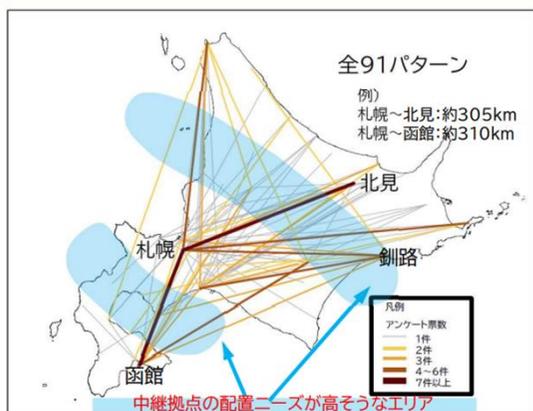
- 物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が少人数のワークショップで話し合える場を提供



## 課題① 「場所」の問題 の解決に向けて

中継輸送のあり方について  
道の駅等を活用した実証実験を実施

- 「道の駅」等において、様々な中継方式（ヘッド交換・ドライバー交換等）/輸送経路で中継輸送の実証実験を実施し、効果を確認



## 共同輸送・中継輸送の仕組みと解決すべき課題

### 課題② 「マッチング」の問題

### 課題① 「場所」の問題



### 課題③ 「商・物」の連携問題

## 課題③ 「商・物」の連携問題 の解決に向けて

- 「北海道フィジカルインターネット懇談会」（経済産業省）や「北海道物流研究会」（北海道イオン等の民間事業者）と連携を図っていく。

項目	概要	2021-2023	2024-2025	2026-2040
物流課題	...	...	...	...
解決策	...	...	...	...

フィジカルインターネットの実現に向け北海道を舞台に各種調査を実施



小売各社が抱える物流面での共通課題を、競合の壁を超えて検討

## 「道の駅」等を活用した小ロット貨物の効率化（共同輸送）



- トラック運行状況、積載物の状況、積載率からトラックの空きスペースを利用した混載輸送の可能性を確認し、『道の駅トラック時刻表』を作成



## 課題② 「マッチング」の問題 の解決に向けて

### 「共同輸送・中継輸送実装研究会」設立

- 持続可能なシステムとするために、より多くの民間事業者の参画を求めながら、マッチングの仕組みづくりを行うため、検討・実証を行う

### 「ロジスク」誕生

- 物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が少人数のワークショップで話し合える場を提供



Q.「第1回道北ロジスク」を通じて実現しそうな取り組みはございましたか？（複数回答）

